

# 外国籍県民かながわ会議（第13期・第7回）議事録

開催日：2025（令和7）年12月21日（日曜日）  
場所：大同生命横浜ビル10階 103会議室

## 1 開会（事務局）

懇話会委員の紹介、会議のルール、会議の録音、欠席者及び配布資料等について説明した。

## 2 全体会議

### (1) 今日の議題について

（柳委員長）

- 本会議は、効果的な提言作りを進める上で、神奈川県全域の現状、他地域での状況について、県民会議の委員自身が学びながら、提言作りに活かす目的で、懇話会委員の方々から説明を聞く機会を設けてください

いる。

### (2) 各懇話会委員による御講義と質疑応答

#### ア 外国人向けの防災支援

菊池委員より、資料に基づいて説明をした。

（モラレス副委員長）

- 菊池委員が紹介したニュースについて、多言語で書いてある防災時の看板が手書きである理由や目的は何か。

（菊池委員）

- 手書きの理由は分からぬが、災害の時のために事前に収録していたと聞いている。

（柳委員長）

- 国際交流協会でラジオを月1で実施していて、多言語支援センターを設置していたとのことであったが、災害が起きる前に日頃から集まっていたことで、支援のスピード感が早まった等の実感はあるか。

（菊池委員）

- 平時の行動が災害の時に試されたと感じた。普段実施していないことを災害時に行うことは難しい。FM仙台と番組を作っていたことで関係があり、ネットワークが活きていることを実感した。また、3月11日から留学生やボランティアの人で手伝ってくれた人達は、普段から一緒に活動していた人たちであった。仙台市役所からも多言語支援センターの依頼を受けたのは、仙台市と地震が起きる前から話をしていたからである。そのため普段のネットワークが試された。

イ 在県枠高校の成り立ちと県立高校における外国に繋がる生徒支援  
 高橋委員より、資料に基づいて説明をした。  
 (李委員)

- Me-net から学校に派遣したコーディネーターの方は何の仕事をしているか。
- (高橋委員)
- 高校の場合、日本語指導だけではない。悩み相談やキャリア支援などと一緒に考えながら行う。何を支援するかは、学校とコーディネーターが話し合い、決めている。一般的な内容は、授業サポート、三者面談サポート、キャリア相談、説明会、オープンキャンパス同行などである。

(李委員)

- 外国人募集枠確保の拡大を決定するのは、委員会だけでなく校長先生などの管理職の意見も含めて決定するのか。

(高橋委員)

- 制度としては、教育委員会の話である。教育委員会には委員がいる。いわゆる教育委員会は事務方に当たるため、決定するところではない。教育委員会事務局ではなく、選任された委員が集まる教育委員会が協議を行い、教育長と決める仕組みである。

(李委員)

- 韓国では、教育長の指示があったとしても現場の管理職の方々の考え方を大切にしている。外国人募集枠を増やしたいというのは、皆の考え方であると思うが、そのためにどのような取組をしてきたのかについて知りたい。現場の声を共有し、教育長へ持っていく方法もあると考える。

(高橋委員)

- ・ 高校の校長は、発言すると自身の学校に影響があるため、発言しづらい部分がある。制度については、他校との関係もあるため言いづらいかもしれない。しかし、中学校の校長会では、耳にする機会が多い。

(韓委員)

- ・ 義務教育である中学校までは、外国につながる生徒をどうするかという問題があると思うが、高校は選択であるため、学校側も外国人の受け入れを決めることが難しいと考える。最近は、先生のオーバーワークも話題になっている。そのように、現場の先生方の苦労が増えることになる。公募数を増やすことも大切であると思うが、学校や県民会議外で何か出来ることはあるか。

(高橋委員)

- ・ 色々な団体が声を上げる必要がある。国が行っている外国人政策は人材不足に対して外から人を呼び込むものであるが、今学校にいる子どもたちとは観点が異なる。これから社会で活躍する人を増やすために、どのような教育をするかの視点が大切であると考える。日本の学校で学ぶ子どもについて、どのような教育で育てるかである。

(韓委員)

- ・ 日本人学生は十分な教育を受けられているのか、将来も含めて考えられるかだと、日本人でさえも難しいと思う。リソースとして使える余地がある外国人の子どもの存在が大切でありつつ、議員など上から政策を落とすようになると、現場が困ってしまうと感じる。現場の準備が出来ていない状態で進めることになってしまう可能性もあるため、アプローチの仕方が大切であると考える。

(高橋委員)

- ・ 韓委員が仰ったことについて、国でも現在動きがある。教員を増やすことは、日本人にも必要なことである。

(韓委員)

- ・ ある自治体が各学校の予算を減らしたと聞いた。予算を切ってしまうと、どこか削らないといけない。先生あたりの学生数が増えてしまうなど、全体的にリソースが足りない状態で何かをすると難しい。今回、確保数を増やすということは、方向性には賛成だが、外国の子どもが入る学校側

が対応しきれないということもあるかもしれない。

(愈委員)

- 現在、一般募集と特別募集があるが、ME-net は特別募集に受験する人を対象に支援しているのか。日本に来て、4年、5年経った人は一般募集であれば良い学校に挑戦を出来るのではないか。

(高橋委員)

- 一般募集は誰でも受けすることが出来る。特別募集の資格があっても一般募集を受けられない訳ではない。本人の選ぶ選択肢を増やせるようにしたいとの思いがある。進学校にも枠や母語教育の機会があると良い。

(モラレス副委員長)

- 日本語の面接レベルはどのぐらいであるか。また、言語レベルの想定等あるか。

(高橋委員)

- 規定はないが、基本的に分かりやすい日本語で聞く。聞かれて答えられる日本語のレベルが N4 にあたる。高校に入って、N3、N2 まで能力が上がると良い。国語の試験ではなく、基礎日本語の試験にして欲しいということを現在要望しているところである。

## ウ 外国人支援について

藤浪委員より、資料に基づいて説明をした。

(韓委員)

- 統計資料だと、ビザの問題はなさそうに見えるが、最近はどのような相談や問題があるか。

(藤浪委員)

- 永住資格を持っていても取り消される可能性もある。そのため、今の生活状況が安全なのか分からぬという相談が ABC ジャパンに届いている。

(韓委員)

- その際、どのような対応をするか。

(藤浪委員)

- 現在の状況を伝え、個人に合った対応をしている。外国人コミュニティの中で真実か分からぬ情報が拡散している。

(韓委員)

- 外国人の枠と社会福祉の枠のどちらでみるのかが問題になっていると見える。永住権等の問題については、外国人だからではなく、社会保険を払っていないのが問題である。そのような問題をごちゃまぜにしない仕組みを考える必要がある。

(藤浪委員)

- 情報が不明確ため、不安を覚える人が多い。保険料の話について、よく分からぬまま未納になっている人もいる。福祉的側面から支援が必要な人もいる。

(倉橋委員)

- 外国人の人が理解できていない問題は、保険料が多いと考える。そのことについて、研修等立ち上げたほうが良いのではないか。最近では、年金の研修が増えている。

(韓委員)

- 日本人でも分からぬ人がいるなど、そもそも制度自体が分かりづらいと考える。

(藤浪委員)

- 外国人支援を行うと外国人へイトに繋がるということもある。最近、興味深いと思ったことについて、愛知県の中学校の見学をさせていただいた際、日本人、外国人の生徒が積極的に手を挙げていた。学校が、外国人に分からぬ授業は、日本人にも分からぬ授業なのではないかと考え、授業の仕組み作りを変えた。

(柳委員長)

- 日本人も外国人も暮らす上で必要な情報をちゃんと説明されないといけないというものがある。払わなかつた時に、外国人は日本にいられなくなるという問題がある。そのため、日本で暮らすとなつたときにちゃんと説明されないといけないと思う。

(藤浪委員)

- ひとり親方が多い場合、個人で手続き等やらないといけない場合も多い。会社が分かっていれば問題ないが、一人でやらないといけない。

## エ 全体での質疑応答

(玉委員)

- ABC ジャパンでは、どのように団体の宣伝をしているか。
- 多言語HPはあるが、基本的には口コミが多い。行政、学校、コミュニティリーダーから繋げてもらうことが多い。
- 組織の中で情報交換をしていると思うが、情報交換のためのネットワークがあるのか。

(藤浪委員)

- 定期的な団体同士の会議や地域の社会福祉協議会など、色々な団体との繋がりがある。
- 宮城県、仙台市での事例について、新たに工夫したことはあるか。
- 震災後には、防災訓練に外国人住民に参加してもらうことを行った。単なる参加ではなく、企画や運営に参加することを行った。地域の防災というと年を取った男性の方が多い。そうすると、年配の男性の視点でしか運営できない。女性の視点や外国人の視点も必要である。

## 3 閉会（柳委員長）（事務局）

- 今日のお話しを心に留めて、次回以降の会議に活かしたい。